

2027年度 早稲田大学 大学院人間科学研究科 研究指導内容一覧

以下は **2026年4月1日時点** の情報です。公開後の変更は赤字で記載します。

今後内容が変更になる可能性もありますのでご注意ください。

<注意事項>

① **当研究科では入学後のミスマッチを防ぐために、出願前にご自身の希望する研究指導の担当教員とコンタクトを取り、担当教員とご自身の考えている研究内容などを十分に相談のうえで出願することを強く推奨しています。可能な限り、担当教員と事前の連絡を取るよう努めてください。ただし、連絡が取れなかった場合でも出願は認めます。**

※複数の教員が担当する研究指導を希望する場合「筆頭担当者」に連絡を取るようしてください。
担当する教員全員に連絡を取っても構いませんが、筆頭担当者には可能な限り連絡を取り、相談するようしてください。

※修士課程2年制一般入試「臨床心理学研究領域」・修士課程1年制一般入試「教育臨床コース」に出願する場合は、各自が希望する教員の臨床心理学研究領域説明会に必ず出席し、担当教員と研究内容を相談してください。

(1) 担当教員への連絡はこの「研究指導内容一覧」内、各教員の指導内容欄を確認し、そこに掲載されているE-mailアドレス宛にメールを送付してください。

もし掲載されていない場合は、以下いずれかのページで掲載を確認してください。

<早稲田大学 人間科学学術院教員紹介ページのアドレス>

<https://www.waseda.jp/fhum/ghum/about/faculty/>

<早稲田大学 研究者データベースページのアドレス>

<https://w-rdb.waseda.jp/search?m=home&l=ja>

(2) **(1)の方法でメールが送付できない場合は、以下メールアドレス宛てに送付してください。**

なお、送付の際は以下を必ず明記してください。

メール件名：大学院人間科学研究科 出願に関する問い合わせについて

- 1) 指導を希望する教員名
- 2) 希望する課程(修士課程2年制・博士後期課程・修士課程1年制)
- 3) 希望する入試形態(一般入試・内部選抜入試など)
- 4) 氏名・カナ氏名(在学生の場合は学籍番号も記載)
- 5) 自身の連絡先(携帯電話番号、PCメールアドレス等)
- 6) 教員へ送付したい内容(教員への質問や相談などを詳細に明記すること)

早稲田大学所沢総合事務センター
大学院人間科学研究科 入試担当 宛
admission19@list.waseda.jp

(3) 海外出張等で教員とすぐに連絡がつかない、または返信が遅れる場合もありますので、早い段階から教員との相談・確認を開始してください。

②研究指導コードは次ページ以降を参照のうえ、間違いのないように志願票に記入してください。

<ご参考：早稲田大学 Web シラバスシステム (検索ページ) >

<https://www.wsl.waseda.jp/syllabus/JAA101.php>

【重要：必ず確認してください】

「研究指導コード」欄に「コード」が入っている研究指導は開講していることを示し、出願可能です。

「×」は募集終了、「－」は担当なしを示し、出願できません。

1. 生物・環境科学研究領域 . . . P 6～

研究指導名	資格	担当教員名	修士課程 研究指導コード	博士後期課程 研究指導コード
森林環境科学	教授	平塚 基志	003	687
水域環境科学	教授	山田 和芳	010	691
生物圏生態学	教授	太田 俊二	015	695
大気環境科学	教授	松本 淳	020	700
極限環境生命科学	教授	赤沼 哲史	023	703
野生動物生態学	准教授	風間 健太郎	027	707
耕地環境科学	教授	横沢 正幸	033	×

2. 社会・経済研究領域 . . . P 8～

研究指導名	資格	担当教員名	修士課程 研究指導コード	博士後期課程 研究指導コード
環境社会学	教授	井上 真	030	710
地域資源論	教授	柏 雅之	×	×
人口社会学	教授	武田 尚子	040	720
家族社会学	教授	松木 洋人	061	－
国際社会学	教授	樋口 直人	065	725
都市社会学	教授	浅川 達人	075	730
階級・階層論	教授	橋本 健二	085	735

3. 文化・歴史研究領域 . . . P 11～

研究指導名	資格	担当教員名	修士課程 研究指導コード	博士後期課程 研究指導コード
移住論・人種エスニシティ	教授	李 里花	116	－
科学史・科学論	准教授	加藤 茂生	120	－
技術文化論	准教授	余語 琢磨	125	－
政治史・社会史	准教授	伊豆田 俊輔	137	－
都市人類学	教授	竹中 宏子	140	747
開発人類学	教授	原 知章	142	748
歴史人類学	教授	里見 龍樹	143	749
物質文化論・自然人類学	講師	中山 なな	146	－
芸術・表象文化論	教授	福島 勲	160	752

4. 行動環境研究領域 . . . P 1 4 ~

研究指導名	資格	担当教員名	修士課程 研究指導コード	博士後期課程 研究指導コード
環境心理・環境デザイン	教授	佐藤 将之	185	765
建築環境学	教授	小島 隆矢	190	770
建築計画学	教授	佐野 友紀	195	775
言語認知発達科学	准教授	佐治 伸郎	201	783
発達心理学	教授	外山 紀子	205	782
社会アフォーダンス心理学	教授	古山 宣洋	207	785

5. 健康生命科学研究領域 . . . P 1 6 ~

研究指導名	資格	担当教員名	修士課程 研究指導コード	博士後期課程 研究指導コード
医療評価科学	教授	兪 炳匡	241	—
基礎老化学	教授	千葉 卓哉	245	825
食品生命科学	教授	原 太一	253	818
幹細胞生物学	教授	神山 淳	269	821
分子神経科学	教授	榊原 伸一	265	820
認知神経科学	教授	大須 理英子	268	823

6. 医工人間学研究領域 . . . P 1 8 ~

研究指導名	資格	担当教員名	修士課程 研究指導コード	博士後期課程 研究指導コード
医療人類学	教授	辻内 琢也	270	830
リハビリテーション身体科学	准教授	鈴木 里砂	333	—
緩和医療学・臨床死生学	教授	笹月 桃子	301	—
社会医学	教授	扇原 淳	310	840
環境脳科学	教授	掛山 正心	312	843
バイオエシックス・生命の哲学	教授	森岡 正博	315	×
生活支援工学	教授	巖淵 守	326	855
健康福祉産業学	准教授	岡崎 善朗	331	—
健康支援医工学	教授	村岡 慶裕	335	858

7. 保健福祉科学研究領域 . . . P 2 1 ~

研究指導名	資格	担当教員名	修士課程 研究指導コード	博士後期課程 研究指導コード
子ども家庭福祉論	教授	上鹿渡 和宏	367	—
社会保障政策論	教授	川村 顕	370	—
健康福祉マネジメント論	教授	松原 由美	377	859
福祉コミュニティデザイン	准教授	古山 周太郎	382	—
ソーシャルワーク論	教授	岩崎 香	385	862
子どものウェルビーイング	准教授	可知 悠子	391	—
老年社会福祉学	准教授	大島 千帆	395	—

8. 臨床心理学研究領域 . . . P 2 4 ~

研究指導名	資格	担当教員名	修士課程 研究指導コード	博士後期課程 研究指導コード
学校カウンセリング学	教授	桂川 泰典	425	—
行動臨床心理学	教授	嶋田 洋徳	430	870
医療心理学・職場メンタルヘルス学	教授	鈴木 伸一	435	875
行動医学	教授	熊野 宏昭	450	890
神経・生理心理学	教授	田山 淳	455	891
行動分析学	教授	大月 友	457	892
発達臨床心理学	准教授	大森 幹真	460	—
心理学の支援論	准教授	井合 真海子	465	—

9. 情報・感性・人間工学研究領域 . . . P 2 7 ~

研究指導名	資格	担当教員名	修士課程 研究指導コード	博士後期課程 研究指導コード
生体情報工学	准教授	百瀬 桂子	485	900
言語情報科学	教授	菊池 英明	495	910
知識情報科学	教授	松居 辰則	520	925
ハプティックインタフェース	教授	藤本 浩志	530	930
安全人間工学	教授	加藤 麻樹	560	897
産業人間工学	准教授	肥田 拓哉	561	—
加齢人間工学	教授	倉片 憲治	563	924
インターネット科学	教授	西村 昭治	570	938
ネットワーク情報システム学	教授	金 群	615	965
インタラクションデザイン	教授	市野 順子	572	939

10. 教育・コミュニケーション科学研究領域 . . . P 3 0 ~

研究指導名	資格	担当教員名	修士課程 研究指導コード	博士後期課程 研究指導コード
教育システム開発論	教授	井上 典之	578	943
教育データサイエンス	准教授	杉澤 武俊	582	—
国際教育コミュニケーション	准教授	杉本 清香	586	—
Sociolinguistics of Education and Communication	准教授	ムラー セロン	588	961
教育実践学	教授	浅田 匡	590	—
情報コミュニケーション技術論	教授	スコット ダグラス	605	—

11. 身体性認知科学研究領域 . . . P 3 2 ~

研究指導名	資格	担当教員名	修士課程 研究指導コード	博士後期課程 研究指導コード
パフォーマンス認知科学	准教授	三浦 哲都	492	—
劇場認知科学	准教授	野村 亮太	501	918
日常記憶心理学	准教授	杉森 絵里子	503	917
マルチモーダルコミュニケーション	准教授	関根 和生	513	919
生態心理学	教授	三嶋 博之	515	922
学習環境デザイン論	教授	尾澤 重知	575	940
協調学習と学習科学	准教授	望月 俊男	587	—
情報メディア教育論	教授	森田 裕介	610	960

修士課程 1 年制コース〔教育臨床コース〕 . . . P 3 5

研究指導名	資格	担当教員名	修士課程 1 年制 研究指導コード
学校臨床心理学	教授	大月 友	645
臨床認知発達学	准教授	大森 幹真	470

人間科学研究科 研究指導内容

—すべての研究指導を掲載しています。募集有無についてはP2~P5を確認してください—

1. 生物・環境科学研究領域

研究指導名	森林環境科学	教授	平塚 基志
専門・専攻分野	森林環境科学	学位	博士(人間科学)早稲田大学
指導内容	人間活動と森林等の自然環境との相互作用を踏まえ、「人と環境の調和メカニズム」をテーマに研究指導を行う。地域・地球レベルでの環境問題の背景要因を特定し、その上でメカニズム構築に取り組むためには、自然科学分野の手法を中心に、関連分野の手法も含めた包括的・学際的研究が求められる。研究は現地調査によるデータ収集・分析に基づき、対象地としては熱帯林及び国内の二次林が中心となる(限定はしない)。		
Keywords	森林保全、生態系サービス、村落開発、参加型アプローチ、地球温暖化、持続可能な開発目標(SDGs)、パリ協定		
Web page	https://hiratsuka.w.waseda.jp/		
E-mail	hiratsuka■waseda.jp(左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025年度)	地域・地球環境科学研究領域		

研究指導名	水域環境科学	教授	山田 和芳
専門・専攻分野	水域環境科学／環境史学／地理学	学位	博士(理学)東京都立大学
指導内容	水成堆積物などの地質アーカイブ解析や、観測機器を用いた水域動態解析を通じて、長期にわたる気候変動、災害史や人間活動履歴を復元し、その変動要因や自然環境と人間活動の因果関係を解明することをテーマとする。フィールドワークと、地球科学的手法による研究アプローチを中心にして、日本国内のみならず諸外国における地域を対象として調査研究を実施する。とくに、湖沼・内湾域を中心とした環境変遷復元研究が中心となる。		
Keywords	気候変動、人間活動史、水域環境変遷、水質変動、地球環境史		
Web page	https://www.yamada100.com/		
E-mail	kyamada■waseda.jp(左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025年度)	地域・地球環境科学研究領域		

研究指導名	生物圏生態学	教授	太田 俊二
専門・専攻分野	環境科学／生態学／気象学／気候変化時の生物圏の影響評価	学位	博士(人間科学)早稲田大学
指導内容	生物圏をめぐるさまざまな系などを地球という最大のシステムとしてとらえ、モデリングやシミュレーションを手法として定量化することを主たるテーマとする。時間スケールとしては数秒から100年単位までを、空間的には微気象から地球全体までを扱っていく。従来の学問領域でいうと、生態学、気候学、農業気象学、地理学などを横断的にアプローチすることを可能とするような研究指導を考えている。これまでの主なシミュレーション研究は、1)世界の植物生産力、食料生産、2)人間活動による森林面積の減少、3)将来予測される気候変化の生物圏への影響などである。		
Keywords	生物圏、物質循環、エネルギーの流れ、気候変化、植物生産力、土地利用、人口分布		
Web page	http://www.npp.human.waseda.ac.jp/		
E-mail	shun■waseda.jp(左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025年度)	地域・地球環境科学研究領域		

研究指導名	大気環境科学	教授	松本 淳
専門・専攻分野	環境科学／大気環境科学	学位	博士(理学) 東京大学
指導内容	<p>地表付近の大気(対流圏)では、人間活動などから放出される大気汚染物質(窒素酸化物、揮発性有機化合物)の光化学反応によって、高濃度で生体に有害となるオゾンなど「光化学オキシダント」が生成します。これを効果的に抑制する前提として、汚染物質の放出・反応といった挙動の正しい把握、そのための実験・観測・計算・解析が重要となります。</p> <p>本研究室では、新規計測ツールの確立・室内実験・実大気観測などを遂行しつつ、関連するデータの解析・評価も実施し、大気環境科学に関する動態解析や現象解明を行い、私達の暮らす大気の状態の維持・改善に貢献します。</p>		
Keywords	大気汚染物質、大気化学反応、光化学オキシダント、浮遊粒子状物質、計測機器開発、大気観測、大気環境動態		
Web page	https://jmatsumoto.w.waseda.jp/		
E-mail	jmatsumoto■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025 年度)	地域・地球環境科学研究領域		

研究指導名	極限環境生命科学	教授	赤沼 哲史
専門・専攻分野	地球生命科学、タンパク質化学	学位	博士(理学) 東京工業大学
指導内容	<p>「40 億年前の遺伝子・タンパク質を復元し、持続可能な社会に貢献する酵素を創出する」ことを主テーマに、生物が持つ環境負荷の少ないタンパク質触媒である酵素を環境問題の解決、食品製造、医薬品合成等に利用することを目指した酵素の機能改変・開発に関する研究と、原始地球環境下での生命誕生のシナリオや、生命の初期進化と当時の生物圏環境についての研究を、コンピュータ解析と実験により実施する。</p>		
Keywords	生命の起源、原始生命、アストロバイオロジー、酵素、遺伝子工学、タンパク質工学		
Web page	https://akanuma.w.waseda.jp/		
E-mail	akanuma■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025 年度)	地域・地球環境科学研究領域		

研究指導名	野生動物生態学	准教授	風間 健太郎
専門・専攻分野	行動生態学／鳥類学／海洋生態学／ 保全生態学／生物地球化学	学位	博士(水産科学) 北海道大学
指導内容	<p>環境調和型の持続可能社会の構築のためには、野生動物が生態系の中で果たす役割(生態系機能)を正しく理解する必要があり、その理解のためには野生動物の生態をつぶさに解明する必要があります。本研究室では、フィールドでの地道な観察・調査から海鳥類や小型哺乳類などの生態を解明してその生態系機能を明らかにします。さらに研究成果をもとに地域の生態系保全や環境調和型の地域づくりも目指します。</p>		
Keywords	動物生活史、生態系サービス、生態系保全、環境影響評価、洋上風力発電、海鳥		
Web page	https://sites.google.com/site/kntkazama/home		
E-mail	kntkzma■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025 年度)	地域・地球環境科学研究領域		

研究指導名	耕地環境科学	教授	横沢 正幸
専門・専攻分野	生態系モデリング／統計モデリング	学位	博士(学術) 東京大学
指導内容	環境との相互作用の結果、生態系に立ち現れる諸現象の解明と予測についての研究指導を行う。学術分野としては生態系生態学、農業環境学、環境解析学等を対象としているが、分野にとらわれず、他分野の知見も援用して課題解決ができるように指導する。手法は、数理モデルをベースとした統計モデリングを中心として、データの背後に含まれる規則性や因果関係を推論できるように研究指導を行い、研究成果が国際学術誌に掲載されることを目指す。		
Keywords	環境応答、物質循環、データ同化、気候変動適応、食糧需給		
Web page	https://sites.google.com/site/yokozawalab/my-homepage		
E-mail	myokoz■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (～2025年度)	地域・地球環境科学研究領域		

2. 社会・経済研究領域

研究指導名	環境社会学	教授	井上 真
専門・専攻分野	環境社会学／森林ガバナンス論／東南アジア地域研究	学位	農学博士(東京大学)
指導内容	人間社会とそれを取り巻く環境の相互作用に関する学生の自主的な興味・関心を重視し、それを展開して論文作成に繋げるためのアドバイスをを行う。そのためには、アカデミズムの中で蓄積されてきた理論、枠組み、概念等を適切に選択・援用・改変すること、あるいは自らそれを創造することが必要である。この研究指導の特徴は、環境社会学および関連分野に跨がる学際的研究の知見を活用した適切な方法論の彫琢にある。研究対象地は熱帯諸国でも日本でもかまわない。		
Keywords	住民、市民、森林、自然資源、生計、自治、連携、ガバナンス、内発的発展		
Web page	https://inouesemi-waseda.jimdofree.com		
E-mail	makinoue■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (～2025年度)	地域・地球環境科学研究領域		

研究指導名	地域資源論	教授	柏 雅之
専門・専攻分野	地域資源論／環境経済学／地域経済学／食料・農業・農村問題	学位	農学博士(東京大学)
指導内容	農山村の過疎問題と内発的発展の論理、および日本農業と農村の再生と主体形成について研究指導する。方法論に関しては、経済学や経営学、そして社会学、政治学などにまたがる学際性を特徴としている。具体的な研究課題としては、①衰退地域再生の論理と方法、②農の再生、むらの再生、③地域内発的アグリビジネス、④農林業と環境問題、⑤EU(欧州連合)の農村振興と社会的企業		
Keywords	内発的地域発展、過疎問題、「農」の再生、農山村の再生、フードシステムの革新、社会的企業		
Web page			
E-mail	kashiwagi■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (～2025年度)	地域・地球環境科学研究領域		

研究指導名	人口社会学	教授	武田 尚子
専門・専攻分野	社会学:人口社会学、地域社会学、質的調査方法	学位	博士(社会学)東京都立大学
指導内容	人口社会学・地域社会学的アプローチ、質的調査によって、地域社会構造、生活構造の変容プロセスを探求する方法を指導する。近現代社会の変動によって生み出された社会的弱者・貧困・格差・社会的疎外にも理解を広げ、生活保障についても考える。		
Keywords	人口移動、地域社会、質的調査方法、労働移動、食と環境		
Web page			
E-mail	naokotakeda■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025年度)	地域・地球環境科学研究領域		

研究指導名	家族社会学	教授	松木 洋人
専門・専攻分野	社会学／家族社会学	学位	博士(社会学)慶應義塾大学
指導内容	質的調査にもとづく家族社会学研究の指導を行う。つまり、①親子関係や夫婦関係、子育てや介護およびそれに対する福祉的支援など、家族に関連するさまざまな対象に社会学の視点からアプローチしようとする研究であると同時に、②インタビュー調査や参与観察、文書資料の収集などの質的データの収集と分析にもとづく研究を指導の対象とする。指導方針としては、①質的データの収集と分析を実践するスキルを養うことに加えて、②自分の研究の意義を社会学研究の文脈や動向と結びつけて提示できるようになることを重視する。		
Keywords	家族社会学、子育て、ケア、家族支援、親密性、質的調査		
Web page	https://researchmap.jp/mtskhrt		
E-mail	matsuki-h■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025年度)	文化・社会環境科学研究領域		

研究指導名	国際社会学	教授	樋口 直人
専門・専攻分野	移民研究、エスニシティ論、社会運動論	学位	博士(社会学)一橋大学
指導内容	移民、エスニシティ、ナショナリズム、グローバル化といった「国際社会学系」の研究と、社会運動や政治社会学といった「政治系」の研究をしている。イスラーム圏や南米での調査をしてきたが、基本的には日本と関係がある移民に関するフィールドワーク歴が一番長く、英語では「日本研究」の書籍に寄稿することが多い。指導方針としては以下を重視する。①国際社会学系の研究をする場合、地域や方法は問わず、国民国家を相対化し新たな視点にもとづく発見ができるようにする。②政治系の研究をする場合、社会学の視点を生かして「政治と社会」の関係で問題を設定できるようにする。③英語での学会発表や論文執筆ができるようにする。		
Keywords	政治社会学、経済社会学、移民、民族問題、グローバル化		
Web page			
E-mail	higuchinaoto■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025年度)	文化・社会環境科学研究領域		

研究指導名	都市社会学	教授	浅川 達人
専門・専攻分野	社会学／都市社会学	学位	博士(社会学)東京都立大学
指導内容	都市社会学の理論および研究方法を用いて、階級格差問題、フードデザート問題(買い物難民・買い物弱者問題)、Social Capital、移民問題、災害時の脆弱性と災害からの復興問題など、現代都市社会に生起するさまざまな社会問題に関する調査研究について指導を行う。研究の方法としては、調査データ・統計データの計量的分析を中心とするが、必要に応じてドキュメント分析、記述現象学、Grounded Theory Approach などの質的分析も行う。		
Keywords	社会地図、社会・空間構造、標本調査、統計データ、質的分析		
Web page	https://asalabmgu.jimdofree.com		
E-mail	t.asakawa■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025 年度)	文化・社会環境科学研究領域		

研究指導名	階級・階層論	教授	橋本 健二
専門・専攻分野	社会学	学位	博士(社会学)武蔵大学
指導内容	社会学的な階級論・社会階層論の立場から、現代日本社会の構造、近現代における階級構造・階層構造・格差構造の変動過程、貧困の実態と動態、格差と関係するさまざまな社会現象の分析をテーマとする研究指導を行う。研究の方法としては、調査データ・統計データの計量的分析を中心とするが、必要に応じて文書資料、ドキュメンタリー、文学作品、映像作品、インタビューなどを用いた質的分析も行う。		
Keywords	階級、社会階層、格差社会、貧困、社会移動、産業・労働		
Web page			
E-mail	hashimoto-kenji■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025 年度)	文化・社会環境科学研究領域		

3. 文化・歴史研究領域

研究指導名	移住論・人種エスニシティ	教授	李 里花
専門・専攻分野	歴史社会学／移民研究／人種エスニシティ研究／地域研究(アメリカ・東アジア)	学位	博士(社会学)一橋大学
指導内容	指導教員の専門は、歴史社会学を基盤にした移民研究と人種・エスニシティ研究である。とりわけ日米の移民史・人種民族的マイノリティ史を、ジェンダーを含めたインターセクショナルリティや植民地主義、ナショナリズムやトランスナショナリズムの視点から研究してきた。そのため大学院では、日米の移民や人種エスニシティについて、その歴史の変遷に注目した文献や、ナショナリズム・トランスナショナリズムやインターセクショナルリティに関する文献(英語文献を含む)を批判的に読み解き、質的調査や歴史資料分析にもとづく研究調査の方法について指導する。尚、大学院で研究を始めるにあたって、学生には事前に①論文執筆経験(または卒論同等の論文執筆経験)、②社会科学の学問的トレーニング、③移住論や人種・エスニシティ論の基礎的理解、の3点を備えていることが望ましく、それを前提に大学院での指導を実施する。		
Keywords	歴史社会学、北米・東アジアにおける移民史、人種エスニシティ論、ジェンダー、帝国と植民地主義、差別、トランスナショナリズム、マイノリティ文化、社会正義と多文化主義カウンセリング		
Web page			
E-mail	rikalee■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025年度)	文化・社会環境科学研究領域		

研究指導名	科学史・科学論	准教授	加藤 茂生
専門・専攻分野	科学史／科学論	学位	
指導内容	近現代の科学史研究について指導を行う。特に、科学の全人間的性格をとらえ、文化・社会全体との関連を考えるという角度から研究する。指導教員は、西欧近代科学が東アジアに移植されたとき、自然および人間についての知や文化がどう変容したのかという関心のもと、物理学の思想と自然観、精神医学の思想、科学・医学と植民地社会、科学における中心と周辺などについて、東アジアの研究者と密接に連絡をとりながら研究を行なっている。しかし、学生の研究テーマはそれらに限定せず、自主性にまかせて広く許容する。学生が科学史・科学哲学・科学社会学の基本的知識を持っていることを前提とし、一次資料と二次資料のリーディングセミナーを行なう。		
Keywords	科学史、科学技術史、科学思想史、科学の社会史、精神医学史、植民地科学、科学と帝国		
Web page			
E-mail	kato■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025年度)	文化・社会環境科学研究領域		

研究指導名	技術文化論	准教授	余語 琢磨
専門・専攻分野	文化人類学・考古学／技術史・技術文化論、生活文化論、医療人類学	学位	
指導内容	技術文化論とは、技術／テクノロジーとそれをめぐる世界観にもとづくモノ・ヒト・コトの民俗的・歴史的な相互作用を読み解く研究である。研究のテーマ・方法として、フィールドワークで得た資料や文献等の資料をもとに、1. 自然環境から資源を利用する技術、および関連する人間の営みを探求する生業史・技術研究、2. 技術や道具・生産物と、関連する社会組織・流通・消費・儀礼・表象・意味などの関係を探求する生活文化研究、3. 身体を加工・治療・介護する技術と情報および心身の相互作用を探求する医療人類学的研究などに関心を持ち、日本や東南アジアをおもなフィールドとして扱う学生を対象に、実践的な指導を行う。		
Keywords	民俗・歴史研究、日本・東南アジア研究、技術、道具、身体、生業、ものづくり、生活文化、伝統的環境知、世界観、民俗医療、病い		

Web page	
E-mail	takuma■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)
旧研究領域 (~2025年度)	文化・社会環境科学研究領域

研究指導名	政治史・社会史	准教授	伊豆田 俊輔
専門・専攻分野	西洋史／ドイツ現代史／東ドイツ史	学位	博士(学術) 東京大学
指導内容	近現代の政治史・社会史を中心に、先行研究の把握と史料の調査・読解を中心とした研究指導を行う。歴史学がエリートを中心とした政治史から、社会構造や日常経験、マイノリティの歴史へと拡張してきた過程をふまえ、政治史・社会史・文化史の交差する歴史学的なテーマを幅広く受け入れる。指導教員はこれまで 20 世紀のドイツの文化と政治、知識人、社会主義体制と市民社会の緊張関係、ジェンダーと公共圏などを研究してきた。そのため、対象地域・時代は限定しないが、ドイツ語圏や東中欧の近現代を扱う場合はより専門的な指導が可能である。		
Keywords	政治史、社会史、文化史、市民社会、社会主義、アソシエーション、ジェンダー史、公共圏		
Web page	https://researchmap.jp/izuta		
E-mail	izuta■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025年度)	文化・社会環境科学研究領域		

研究指導名	都市人類学	教授	竹中 宏子
専門・専攻分野	文化人類学／スペイン地域研究	学位	Ph.D.(政治・社会学)マドリッド大学
指導内容	人類学史および人類学の理論的枠組みにおける都市人類学の位置づけを確認しながら、都市人類学の課題と展望を提示できる洞察力を養うことを目的としている。また、国内と海外の都市人類学をはじめとする都市文化の研究動向を比較しながら、学生自らの研究に独自の視点を取り込む指導も行う。フィールドの対象は主として都市となるが、都市が対概念を必要として存在することを考慮すると、「田舎」や「郊外」も広く都市を理解するフィールドとして設定可能である。		
Keywords	都市、都市文化、都鄙関係、文化人類学、伝統と近代、フィールドワーク		
Web page			
E-mail	h-takenaka■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025年度)	文化・社会環境科学研究領域		

研究指導名	開発人類学	教授	原 知章
専門・専攻分野	文化人類学／民俗学	学位	博士(文学) 早稲田大学
指導内容	文化人類学の立場から、社会開発・人間開発、地域づくり、コミュニティデザインなどをふくむ広義の「地域開発」を対象とした研究をおこなう。主にエスノグラフィーの方法を用いて、特定の地域を対象にした調査・研究を進め、持続可能な地域開発のあり方を追究する。また、地域開発にともなう文化変容のプロセスの記述・分析や、地域開発を支える思想の批判的検討にも取り組む。必要に応じて、民俗学的アプローチも援用する。		
Keywords	地域開発、文化変容、文化人類学、民俗学、エスノグラフィー		
Web page	https://tomohara.w.waseda.jp/		
E-mail	tomohara■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
備考	当研究指導は、担当教員への事前コンタクト(研究室訪問またはメールによる研究計画等の事前相談)を原則必須とします。出願を希望する方は、上記 E-mail アドレスに連絡の上、事前コンタクトについて申し出てください。		
旧研究領域 (~2025年度)	文化・社会環境科学研究領域		

研究指導名	歴史人類学	教授	里見 龍樹
専門・専攻分野	文化人類学	学位	博士(学術) 東京大学
指導内容	かつて「未開社会の学」であった文化人類学は、20 世紀後半以降、植民地の独立やグローバル化などの変化の中で、大きくその姿を変えてきました。研究指導の名称になっている「歴史人類学」もそうした変化の一環であり、このアプローチは、文化人類学に歴史学的な視点を取り入れることによって文化のとらえ方を刷新しました。この研究指導では、文化人類学が過去 30 年ほどの間に大きく変化してきたという前提に立ち、「人間と環境の関係」、「歴史のとらえ直し」などの現代的なテーマを、具体的なエスノグラフィーの実践を通して探究します(研究テーマは「歴史」に限定されません)。		
Keywords	文化人類学、歴史、環境、フィールドワーク、エスノグラフィー		
Web page	https://www.ryujusatomi.com/		
E-mail	ryuju.satomi ■waseda.jp (左記 ■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025 年度)	文化・社会環境科学研究領域		

研究指導名	物質文化論・自然人類学	講師	中山 なな
専門・専攻分野	考古学／自然人類学	学位	博士(人間科学) 早稲田大学
指導内容	物質資料やヒトの身体的特徴から、過去の人間の文化や社会を探索する考古学・自然人類学的研究に取り組む。いずれの学問領域も、調査・研究のさまざまなレベルにおいて、歴史学・民俗学・年代学をはじめとする他の領域との接点をもっており、総合的、学際的方向性を本質的に内包している。こうした視点にもとづいて、それぞれの学問領域が扱う資料の特質と限界、観察・記載の方法、分析の方法、解釈の方向性などについて指導する。		
Keywords	考古学、歴史考古学、骨考古学、自然人類学、身体		
Web page			
E-mail	n.nakayama ■waseda.jp (左記 ■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025 年度)	文化・社会環境科学研究領域		

研究指導名	芸術・表象文化論	教授	福島 勲
専門・専攻分野	芸術・表象文化論、現代文学・思想、文化資源学	学位	博士(文学) 東京大学
指導内容	芸術(文学、映画、美術、写真、モニュメント等)や制作活動、その展示が人間にとってどのような意味を持っているのか、また持ちえるのか。これらの問いを、審美的次元や経済的価値とは異なる立場から、その文化的、歴史的、社会的、倫理的視点を視野に入れながら、その様態と機能について研究しています。例えば、記憶装置としての芸術といったような具体的かつ現代的な主題を通じて芸術観の再構成を目指します。		
Keywords	映画、文化資源、フランス文学、死生学、現代美術、現代文学、現代思想、写真、記憶、芸術、表象		
Web page	https://researchmap.jp/2940130/		
E-mail	isa0 ■waseda.jp (左記 ■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025 年度)	文化・社会環境科学研究領域		

4. 行動環境研究領域

研究指導名	環境心理・環境デザイン	教授	佐藤 将之
専門・専攻分野	環境心理学／建築計画学／こども環境学	学位	博士(工学) 東京大学
指導内容	建築や都市の環境から各自が関心、興味をもつ次元を選択し、フィールドサーベイを通じて人間と環境との相互関係を明らかにする。特に、着目した次元における人間と環境との相互作用・相互浸透、環境決定に関する分析・考察を行う。応用的な学問としての環境心理学を議論する。環境デザインの議論については、デザイナー向けだけではなく、一般ユーザー向けの意識啓蒙、環境の使い方、環境とのつきあい方の提案を行うものとする。		
Keywords	環境行動研究、建築、環境デザイン、教育、保育、居住、空間		
Web page	http://www.f.waseda.jp/satomasayuki/		
E-mail	satomasayuki■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (～2025 年度)	人間行動・環境科学研究領域		

研究指導名	建築環境学	教授	小島 隆矢
専門・専攻分野	建築環境学／環境行動学	学位	博士(工学) 東京大学
指導内容	住居・建築・都市などの環境をよりよいものとすることを目的として、広い意味での顧客(利用者、居住者、所有者、管理者、市民)の意識や行動に関する研究を行う。主要な研究課題としては、環境に対する顧客のニーズ・CS(顧客満足)を把握する調査分析法、その結果を環境の計画・マネジメント等に役立てる方法論の検討などがあげられる。各自の関心・問題意識によりテーマを設定し、事実(データ)を根拠として何らかの提案・提言に結びつく研究成果を期待する。		
Keywords	建築、都市、環境工学、CS(顧客満足)、ニーズ把握、調査手法		
Web page			
E-mail	takaya■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (～2025 年度)	人間行動・環境科学研究領域		

研究指導名	建築計画学	教授	佐野 友紀
専門・専攻分野	建築計画学／建築人間工学／建築防災	学位	博士(工学) 早稲田大学
指導内容	環境としての建築と人間行動の関係を明らかにすることで、相互が適応した建築計画手法を理解する。人間の行動観察や建築の使い方調査等のフィールド調査、文献調査、実験室実験等を行い、人間－空間－時間の関係をモデル化し、現象を予測、評価することで、建築計画にフィードバックする手法を習得する。また、建築の安全性、利便性、持続可能性等についての研究テーマを各自が選択し、問題点の解明と解決策の提案を追求する。		
Keywords	建築、人間工学、防災、安全、ユニバーサルデザイン、群集制御、モデル、シミュレーション		
Web page	http://sanolab.jp/		
E-mail	sano-t■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (～2025 年度)	人間行動・環境科学研究領域		

研究指導名	言語認知発達科学	准教授	佐治 伸郎
専門・専攻分野	言語心理学	学位	博士(学術)慶應義塾大学
指導内容	言語的意味は、人間が身体を通し眼前の世界を意味づける知覚と、社会の成員が長い年月をかけて累積してきた世界の意味づけ方である文化との狭間に生まれる。本研究指導では、子どもや大人がどのように言語的意味を習得するのか、言語的意味を習得することがどのように思考やコミュニケーションの発達に影響を与えるのかという問題を、身体性、社会的認知能力言語の記号的特性、個別言語の特性、文化的特性などの方面から実験的に検討する。		
Keywords	言語習得、記号コミュニケーション、言語と思考、意味論		
Web page			
E-mail	saji■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025年度)	人間行動・環境科学研究領域		

研究指導名	発達心理学	教授	外山 紀子
専門・専攻分野	発達心理学	学位	博士(学術)東京工業大学
指導内容	子どもには、生得的に(あるいは発達のごく初期から)、特定の情報に注意を向け、それを特定のやり方で処理するバイアスが備わっています。この認知的基盤と環境(他者やモノ、その社会の習慣など)との相互作用によって進んでいくものが発達です。この研究指導では、知識やスキルの習得、子どもの動機づけを支える環境世界のあり方、そこでの子どもの振る舞い、他者とのかかわりを観察や実験を通して探ります。頭でただ考えるのではなく、自分なりの視点をもって現象を丁寧に観察する、そしてその背景にあるものを想像しながらまた考える。この作業を繰り返しながら、実証的で独創的な研究を目指します。		
Keywords	動機づけ、認知発達、知識獲得、概念発達、親子、食、病気、保育		
Web page			
E-mail	toyama■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025年度)	人間行動・環境科学研究領域		

研究指導名	社会アフォーダンス心理学	教授	古山 宣洋
専門・専攻分野	認知科学、生態心理学	学位	Ph.D.(心理学)シカゴ大学
指導内容	認知科学における社会文化アプローチ、生態心理学、および周辺諸領域(心理言語学、社会言語学、語用論、記号論など)の観点から実証的な研究を提案・実施し、その成果を学位論文として纏めていく。		
Keywords	言語、身体性、社会文化アプローチ、相互行為、コミュニケーション、不変項、アフォーダンス		
Web page			
E-mail	furuyama■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025年度)	人間行動・環境科学研究領域		

5. 健康生命科学科学研究領域

研究指導名	医療評価科学	教授	愈 炳匡
専門・専攻分野	医療経済学／医療評価科学	学位	博士(学術) ジョンズ・ホプキンス大学
指導内容	<p>医療に関する介入・公共政策を計量的に評価する研究指導を行う。分析の方法論としては、費用対効果・便益分析、統計学、計量経済学、マイクロ経済学等を用いる。</p> <p>(1) 21 世紀に入り、世界で新興大規模感染症が発生する頻度が急速に高まっている。今後も続発が予想される大規模感染症の公衆衛生対策を評価するため一次・二次データを分析する。特に過去3年間に先進諸国で整備が進んだ下水疫学調査に関する政策提言も行う。</p> <p>(2) 生活習慣を完全に改善すれば総医療費の約 3 分の 1(日本なら約 15 兆円、米国なら約 100 兆円)が削減可能であるとの試算があるため、生活習慣の改善は近年の医療経済学を含む世界の健康・生命科学の大きな研究課題である。ユウが米国カリフォルニア大学デービス校在籍時に開発した、演劇・即興劇の手法を重視する新奇の健康教育プログラムの広義の効果(個人の健康だけでなく地域経済への影響を含む)を評価する。本健康教育プログラムを実施するファシリテーター(進行役)としてのスキルの獲得、地方自治体等での社会実装も目指す。</p>		
Keywords	大規模感染症(パンデミック)、公衆衛生政策、ビッグデータ分析、シミュレーション分析、行動変容、健康教育、演劇、即興劇、地方再生		
Web page			
E-mail	yoobk■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025 年度)	健康・生命医科学研究領域		

研究指導名	基礎老化学	教授	千葉 卓哉
専門・専攻分野	基礎老化学／実験病理学／抗加齢医学／分子生物学／神経化学／分子腫瘍学	学位	博士(医学) 京都大学
指導内容	<p>マウスなどの実験動物に対して、食餌を自由に摂食させた際に消費する量から 30%程度減らした食餌量を与えること(カロリー制限)は、寿命を延長させるとともに、老化に伴う様々な疾患の発症を遅らせることが知られている。このカロリー制限による抗老化作用の分子メカニズムを、各種ストレス応答の変化と関連付けて明らかにすることで、ヒトを含めた高等生物における老化制御機構の解明を目指している。また、実際に食事量を減らすことなくカロリー制限の抗老化作用を模倣する物質(カロリー制限模倣物)の開発を目指した研究も行っている。さらに、ヒトにおける早老症を引き起こす原因遺伝子として DNA の複製、修復、組換えに関与するタンパク質が複数同定されていることから、これらのタンパク質の機能解析を通じて DNA 傷害性ストレスによるゲノムの恒常性維持機構の破綻が、どのようにして老化を促進するのかについて研究を行っている。</p>		
Keywords	老化、老化関連疾患(ガン、生活習慣病、神経変性疾患)、カロリー制限、老化疾患改善剤、ストレス応答、細胞周期、DNA 損傷、放射線生物学		
Web page	http://www.f.waseda.jp/takuya/index.html		
E-mail	takuya■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025 年度)	健康・生命医科学研究領域		

研究指導名	食品生命科学	教授	原 太一
専門・専攻分野	食品科学、細胞生物学、分子生物学	学位	博士(医学)九州大学
指導内容	急速な少子高齢化の進展により、医療費の増加や労働力人口の減少など、将来的に社会を支える仕組みの維持が困難になることが懸念されています。このような課題の対策において、いかに健康寿命(社会生活を正常に営むことができる状態)を延伸させることが重要となっています。健康寿命の延伸には、「未病」という病気になる前のステージから健康状態に戻すアプローチが大切です。病気に対する薬と異なり、健康～未病ステージから摂取可能な食の予防医学における役割に注目が集まっています。当研究室では、食品中の機能性成分の作用機序を分子レベルで解明することに取り組んでいます。健康増進効果を有する食品の機能を生命科学の視点から読み解くことで、未知の生命現象やこれまであまり研究が進んでいない「未病」を生物学的に解明し、革新的な予防医学を実現することに取り組んでいます。そして、健康とは何か？を知り、健康寿命の延伸に資する真の健康・美容シーズの開発に繋がりたいと考えています。これらの取り組みを通じて、食品科学と生命科学のスキルを武器に健康長寿社会の実現に貢献できる、高度人材を育成できるように努めます。		
Keywords	食品科学、分子健康科学、ヘルスケアサイエンス、オートファジー、機能性食品・化粧品開発		
Web page	https://w-rdb.waseda.jp/html/100001493_ja.html		
E-mail	harata1■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025年度)	健康・生命医科学研究領域		

研究指導名	幹細胞生物学	教授	神山 淳
専門・専攻分野	再生医学／バイオインフォマティクス／分子生物学／神経科学	学位	博士(医学)慶應義塾大学
指導内容	iPS 細胞や組織幹細胞を用いた分子メカニズムの解明と再生医療・創薬応用を中心に、細胞の自己複製、分化制御、エピジェネティック修飾、シグナル伝達経路の解析を行います。特に、シングルセル RNA-Seq、エピゲノム解析などのオミクス技術を活用し、幹細胞の動態を包括的に解析することで、ヒト発生や疾患発症メカニズムの理解を深めます。また、CRISPR/Cas9 を用いた遺伝子編集や幹細胞培養技術を駆使し、iPS 細胞由来の疾患モデルを作成し、神経変性疾患などの病態再現を試みます。さらに、幹細胞の分化誘導技術を応用し、疾患モデルを用いた創薬スクリーニングや再生医療の実用化を目指し、基礎から応用研究まで幅広く取り組みます。		
Keywords	幹細胞、自己複製、分化、再生医療、組織工学、シグナル伝達、細胞培養、疾患モデル		
Web page			
E-mail	jkohyama■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025年度)	健康・生命医科学研究領域		

研究指導名	分子神経科学	教授	榊原 伸一
専門・専攻分野	神経発生／神経解剖／組織学	学位	博士(医学)東京大学
指導内容	我々ほ乳類の胎児の脳や脊髄の中にわずかな数存在する神経幹細胞は、脳や脊髄を構成する全ての細胞の源となる母細胞と考えられている。複雑な機能と精緻で美しい形態をもつ我々の脳は、どのようにしてこの神経幹細胞から作り上げられていくのだろうか？また近年の再生医療研究の上でも重要な細胞として、神経幹細胞に注目が集まっている。しかし、その脳内での存在場所や、幹細胞を維持するために必要な遺伝子発現の制御機構についてはわかっていないことが多い。我々は神経幹細胞に強く発現する遺伝子を見つけだし、その遺伝子の構造、細胞内での働き、脳が形成される際の働きを明らかにしていこうと考えている。分子生物学的手法、培養細胞を用いた細胞生物学的手法、遺伝子発現を操作した動物の脳を顕微鏡観察する組織学的、形態学的手法など様々な方法を駆使して、神経幹細胞の働きを解明していくことで、脳や脊髄の生い立ちを理解したいと考えている。		
Keywords	神経幹細胞, 中枢神経系, 遺伝子発現, 細胞分化		
Web page			

E-mail	sakakiba■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)
旧研究領域 (~2025年度)	健康・生命医科学研究領域

研究指導名	認知神経科学	教授	大須 理英子
専門・専攻分野	認知神経科学	学位	博士(文学)京都大学
指導内容	<p>脳を情報処理装置ととらえ、そのしくみを探ることから「心」と「身体」にアプローチする。例えば、我々は日々多くの情報に触れているが、脳は、全てを取り入れるのではなく、必要な情報を選別している。一方で、意識にのぼらない多くの情報を取り入れており、私たちの意思決定や気分・情動は、このような潜在的情報によって大きく影響を受けている。加えて、脳は、経験や学習によって情報を獲得することによって世界を理解し制御する。このような情報処理がうまく働かなくなることで心身や身体に不調をきたすと仮定すると、その理解が健全な心身の維持や機能の改善に貢献すると期待される。本研究指導では、脳活動や行動指標、生理指標の計測、刺激による脳や神経への介入といった人を対象とした仮説検証実験、計算機シミュレーション、データベースを用いた探索的研究など、さまざまな実証的手法により、脳のしくみにアプローチする。基礎研究に加え、臨床・社会応用を見据えた研究も歓迎する。</p>		
Keywords	<p>脳科学、心理学、システム神経科学、脳計測、生体指標、身体性、潜在性、社会性、運動制御・学習、感情、インタラクション、可塑性、精神・神経疾患、発達障害、ニューロモジュレーション、ニューロリハビリテーション、ニューロマーケティング、ニューロダイバーシティ</p>		
Web page	https://www.osu-lab.com		
E-mail	r.osu■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025年度)	健康・生命医科学研究領域		

6. 医工人間学研究領域

研究指導名	医療人類学	教授	辻内 琢也
専門・専攻分野	医療人類学／心身医学／ヘルスプロモーション	学位	博士(医学)東京大学
指導内容	<p>健康(health)や病い(illness)、そして臨床や医療の現実、身体的・心理的・社会的・文化的(bio-psycho-socio-cultural)な複合産物として構築されている。医療人類学(Medial Anthropology)では、その複合産物に影響を与える生物生態学のおよび社会文化的要因について、人類の歴史を背景に比較文化的に探求する。</p> <p>本研究指導では、震災・原発事故による集合的トラウマ(collective trauma)や社会的苦悩(social suffering)、3.11以降の人々や地域の心理・社会・文化的復興を目指した医療福祉連携支援、災厄や苦悩の表象としての病いの語り(narrative)、地球環境やエネルギー問題と関連した21世紀の国際社会におけるグローバルメンタルヘルスと構造的暴力(structural violence)の関連、セクシャルマイノリティ(LGBTQ+)や難民・移民・国内避難民(IDPs)・異民族・精神障害者などのあらゆる社会的・文化的・政治的マイノリティの苦悩の構造を研究対象とし、それらの問題解決方法を見出す。</p>		
Keywords	<p>Medial Anthropology, Anthropology of Disaster, Social Suffering, Collective Trauma, Post Traumatic Stress Disorder (PTSD), Structural Violence, Illness Narrative, Narrative Based Medicine (NBM), Global Mental Health, Refugee, Internal Displaced Persons (IDPs), Sexual minority, Politics, Spirituality.</p>		
Web page	災害復興医療人類学研究所: https://wima.jp/		
E-mail	tsujiuchi■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025年度)	健康・生命医科学研究領域		

研究指導名	リハビリテーション身体科学	准教授	鈴木 里砂
専門・専攻分野	健康管理科学／理学療法学／身体科学 /リハビリテーション科学	学位	博士(人間科学)早稲田大学
指導内容	疾病や外傷による障がいを持つ人々を含む、全てのひとの生活の質(Quality of Life)を向上し、充実した生活を送るための支援に関する研究を対象とします。機能回復を目標としたリハビリテーションの実践のみならず、テクノロジー(ウェアラブルデバイスや姿勢分析 AI 等)を用いた日常の健康管理や行動変容、音楽やスポーツと認知機能の関連、さらには多職種連携の構造解明や医療専門職の視線計測(暗黙知の可視化)など、幅広い視点からのテーマで研究を行っています。客観的なデータに基づく科学的かつ現場に応用できる最適な方法論を探求し、当事者の活動参加支援・臨床現場の問題解決を行っています。		
Keywords	バイオフィードバック、ICT ヘルスケア、生体計測、ライフスタイル医学、リハビリテーション科学、多職種連携・コラボレイティブリーダーシップ、認知機能・パフォーマンス、暗黙知の可視化、医療専門職教育		
Web page			
E-mail	risas■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025 年度)	健康・生命医科学研究領域		

研究指導名	緩和医療学・臨床死生学	教授	笹月 桃子
専門・専攻分野	緩和医療学/臨床死生学/生命倫理学/ 臨床倫理/小児科学	学位	博士(医学)九州大学
指導内容	なぜ生きることに目的が、死にゆくことに意味が求められるのか。子ども・障害者・難病患者・高齢認知症患者など、社会で最も脆弱な立場に置かれた人々をめぐる医療の現場を通じて、我が国の医療文化・社会に通底する思想や問題構造を見極める。社会は医療に何を求め、逆に医療は社会に何を期待するのか。実践と理論を行き来しつつ、未来世代にどのような社会を引き継ぎたいか、共に思索探究します。		
Keywords	いのちと最善の利益、いのちと尊厳、生命維持治療、協働意思決定、代理意思決定、医療者の葛藤、子どものいのち、医療と社会		
Web page			
E-mail	sasazuki■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025 年度)	健康福祉科学研究領域		

研究指導名	社会医学	教授	扇原 淳
専門・専攻分野	社会医学／健康情報学／社会福祉開発	学位	博士(医学)順天堂大学
指導内容	人々の健康や生活で生じる問題と社会との関わりの解明とその対策の立案・検証までを射程に入れて研究指導を行う。親子、高齢者、障害者、感染症、生活習慣病、食・栄養、災害、貧困、介護のように社会医学が対象とする領域が人々の生活全般に及ぶことから、幅広いテーマを扱いながらも、基本的には学生個人の独立したフィールドでの活動も尊重し、その活動に基づいた研究テーマに取り組むことを支援する。		
Keywords	ソーシャル・キャピタル、ヘルスリテラシー、健康教育、社会的孤立・孤独、社会的処方、文化的処方、地域包括ケアシステム、医療介護連携、東洋医学、地域活性化、健康都市政策		
Web page	http://www.ogiharalab.com/		
E-mail	aogi■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025 年度)	健康福祉科学研究領域		

研究指導名	環境脳科学	教授	掛山 正心
専門・専攻分野	予防医科学、脳神経科学	学位	博士(人間科学)早稲田大学
指導内容	社会的ストレスや化学物質曝露と「こころ」の発達の関係について、動物実験による知見とともに、赤ちゃんやお母さん、患者さんを対象としたヒト研究も行い、脳の発達と健康からの逸脱についての生物学的基盤の解明に取り組む。		
Keywords	脳発達、ヒト研究、ゲノム解析、マウス実験、認知的柔軟性、社会性、高次認知機能、環境汚染物質		
Web page			
E-mail	kake■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025年度)	健康福祉科学研究領域		

研究指導名	バイオエシックス・生命の哲学	教授	森岡 正博
専門・専攻分野	現代哲学	学位	博士(人間科学)大阪府立大学
指導内容	研究指導は以下の二つの領域で行なう。 (1)「バイオエシックス／科学技術論／研究倫理学」・・・生命倫理の諸問題(脳死、生殖技術、生命改造、能力増強、ジェンダー、障害など)、環境倫理／環境哲学の諸問題(人間と自然の関係、将来世代の問題、動物の権利など)、科学技術と人間の幸福に関する問題、現代文明論。 (2)「生命の哲学／現代哲学／現代思想／現代倫理学／人間学」・・・生命の哲学の諸問題(生と死、生きる意味、生命とは何か、自殺など)、現代哲学／思想／倫理学／人間学の諸問題(人間とは何か、どういう社会がよい社会なのか、存在とは何か、時間とは何か、愛とは何か、悪とは何かなど)。		
Keywords	生と死、脳死、生きる意味、科学文明論、いのちの尊厳、存在論		
Web page			
E-mail	morioka■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025年度)	健康福祉科学研究領域		

研究指導名	生活支援工学	教授	巖淵 守
専門・専攻分野	生活支援工学、支援技術	学位	博士(工学)大阪大学
指導内容	AI・DX 時代における福祉とテクノロジー利用について考え、ICT を中心に身の回りにある技術を応用した新たな生活支援を提案する研究開発に取り組んでいます。インクルーシブ社会の推進を目指し、障害のある人をはじめ、様々な困難を抱える人々の多様なコミュニケーションや学び方・働き方を支援する技術開発を行っています。工学的アプローチを軸にしながら、現場に密着した学際的研究を実施します。		
Keywords	支援技術、福祉工学、ヒューマンインタフェース、インクルーシブデザイン、バリアフリー		
Web page	https://iwalab.jp/		
E-mail	miwabuchi■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025年度)	健康福祉科学研究領域		

研究指導名	健康福祉産業学	准教授	岡崎 善朗
専門・専攻分野	健康福祉産業学、医用工学	学位	博士(工学) 東京大学
指導内容	医療技術の急速な発展により人々の健康寿命や Quality of Life が向上した一方、僻地や途上国の臨床現場では医療サービスを十分に享受できない人々も多い。このような社会課題に対して、AI や IoT など身近な先端技術の利活用が一つのソリューションになり得る。本研究指導では、開発途上国を含む臨床課題に対して、スマートフォンなどの身近な技術を、いかに安価に使いやすい形で現場に応用できるかについて検討し、物作りを通して実証的な研究を進める。また、その産業化の道筋についても探索する。		
Keywords	医用工学、医療・健康福祉機器開発、途上国支援、産業化		
Web page			
E-mail	y.okazaki■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025 年度)	健康福祉科学研究領域		

研究指導名	健康支援医工学	教授	村岡 慶裕
専門・専攻分野	生体計測/リハビリテーション科学	学位	博士(工学) 慶應義塾大学
指導内容	身体機序の解明や、携帯端末などの身近な技術を用いた身体機能回復・向上のための安価で使いやすいリハビリ・ヘルスケアデバイスの開発を行っています。例として、脳卒中麻痺の機能回復機序の解明と、その知見に基づく運動学習を促す電気刺激装置の開発。スマートフォンを用いた筋電フィードバック装置や嚥下機能評価装置の開発。さらに、瘻性評価装置や臨床用簡易歩行分析法の開発、および、ロコモティブシンドロームや慢性閉塞性肺疾患に対する電気刺激を用いた低心肺負荷下肢筋トレーニングに関する研究などを進めています。		
Keywords	人体センシング・コントロール、歩行分析、ニューロモデレーション、筋力増強		
Web page	https://muraoka.w.waseda.jp/2011/		
E-mail	y.muraoka■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025 年度)	健康福祉科学研究領域		

7. 保健福祉科学研究領域

研究指導名	子ども家庭福祉論	教授	上鹿渡 和宏
専門・専攻分野	子ども家庭福祉、児童精神医学	学位	博士(福祉社会学) 京都府立大学
指導内容	社会福祉学と児童精神医学の二つの観点から、日本の社会的養護における課題の解決、新たな社会的養育の構築に向けた研究、実践を続けています。子どものパーマネンシー保障や代替養育における家庭養育移行をめざすプログラムやシステム、人材育成等について、海外や国内の先進事例や研究を参考に、そこから得られる示唆の活用や実践としての導入・展開の可能性について研究しています。		
Keywords	家庭養育、社会的養育、子ども家庭福祉、児童精神医学、子どもの権利		
Web page	https://waseda-ricsc.jp/		
E-mail	kamikado■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025 年度)	健康福祉科学研究領域		

研究指導名	社会保障政策論	教授	川村 顕
専門・専攻分野	社会保障分野の実証分析、政策評価	学位	博士(社会経済) 筑波大学
指導内容	各種公的統計データを用いて、社会保障分野(特に医療と介護)における各種の政策評価を行っています。政策評価とは、言い換えれば政策の因果効果を捉えるということですが、計量分析において因果を識別するにはさまざまな工夫が必要です。指導においては、これまでに統計学/計量経済学で開発されてきた手法を学んでもらいつつ、社会保障分野への適用可能性やその含意について研究を進めます。		
Keywords	公的医療保険、公的介護保険、計量分析、因果推論		
Web page			
E-mail	akawamura■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025年度)	健康福祉科学研究領域		

研究指導名	健康福祉マネジメント論	教授	松原 由美
専門・専攻分野	医療・福祉経営、政策	学位	博士(福祉経営) 日本福祉大学
指導内容	人の存在意義の発揮を支援する医療、介護、福祉分野における経営と政策が研究テーマです。ミクロ面では、①会計や経営分析等の資金マネジメント、②心理的安全性やリーダーシップ論等の組織マネジメント、③戦略論等の環境マネジメントといったマネジメント論と共に、これらを統合する福祉の哲学を研究しています。マクロ面では、これらの経営を実践し、より善き社会と Well Being を構築するための政策について理論と実証、両面の研究を行っています。		
Keywords	医療・福祉経営、経営分析、非営利組織、社会保障政策、地域共生社会、Well Being		
Web page	https://www.youtube.com/channel/UCnPmsDVUUw48rIcPMW9Tjnw		
E-mail	y-matsubara■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025年度)	健康福祉科学研究領域		

研究指導名	福祉コミュニティデザイン	准教授	古山 周太郎
専門・専攻分野	地域福祉	学位	博士(工学) 東京工業大学
指導内容	住民が地域で安全安心な暮らしを営むために、コミュニティを舞台に様々な分野でフォーマル、インフォーマルな関わりが展開されてきました。一方で、複雑化かつ多様化する社会的課題に対して、全国共通に実施される既存の施策や、旧来的な地域団体による支援方法の限界もまた指摘されています。研究指導では、地域での現代的な福祉課題を研究テーマに据え、地域の特色を踏まえた多角的な分析から問題の構造を明らかにし、福祉コミュニティの構築に関する実証的な研究を目指します。		
Keywords	福祉コミュニティ、社会的弱者、居住支援、地域防災、環境的公正		
Web page			
E-mail	skoyama■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025年度)	健康福祉科学研究領域		

研究指導名	ソーシャルワーク論	教授	岩崎 香
専門・専攻分野	ソーシャルワーク、障害者福祉	学位	博士(人間学)大正大学
指導内容	<p>昨今、サービスを提供する側と受ける側のパートナーシップの形成は共生社会を志向する現在の国際的な潮流の中でも強調されている。その実現にはサービスの受け手を中心に多様なサービス提供者の連携を念頭においた支援システムの構築が待たれる。システムがクライアントの真のニーズ実現に向けて機能するために必要とされるソーシャルワーカーの実践力とは何だろうか。ソーシャルワーク理論と実践の循環を促し、マイクロとマクロのソーシャルワーク実践を取り結ぶソーシャルワークの専門性を探究する。</p>		
Keywords	ソーシャルワーク、アドボカシー、ピアサポート、障害者、ソーシャル・インクルージョン、メンタルヘルス		
Web page			
E-mail	k-iwasaki■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025年度)	健康福祉科学研究領域		

研究指導名	子どものウェルビーイング	准教授	可知 悠子
専門・専攻分野	子どもの健康福祉学、公衆衛生学、社会疫学	学位	博士(医学)東京大学
指導内容	<p>どのような環境に置かれた子どもでも well-being を享受できる公正な社会の実現を目指し、社会疫学の観点から、子どもの well-being の要因や向上策に関する研究を行っています。社会疫学とは就労や収入、人とのつながり、政策、文化などの社会経済的な状況が人々の well-being に及ぼす影響について、主に疫学的手法を用いて解明する学問です。具体的には、保護者の貧困、劣悪な労働環境、仕事と育児の両立のしづらさ、孤立等の課題の改善や、子どもに対する社会的支援の充実等につながる研究を進めています。</p>		
Keywords	子ども、保護者、well-being、社会的公正、社会的決定要因		
Web page			
E-mail	kachi■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025年度)	健康福祉科学研究領域		

研究指導名	老年社会福祉学	准教授	大島 千帆
専門・専攻分野	高齢者福祉、福祉住環境	学位	博士(社会福祉学)日本社会事業大学
指導内容	<p>少子・高齢社会の進展に伴う、個人や社会に与える影響は多岐に渡っている。こうした時代における、高齢者のその人らしい生活とは何か、地域を基盤にした生活を支えるための要素は何だろうか。本研究指導では、高齢者の生活やケア、暮らしを支える居住環境に関連する諸課題を研究テーマとし、何らかの調査に基づく実証的な研究に取り組む。</p>		
Keywords	高齢者、認知症、居住環境、エイジング・イン・プレイス、地域包括ケアシステム		
Web page			
E-mail	c.oshima■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025年度)	健康福祉科学研究領域		

8. 臨床心理学研究領域

研究指導名	学校カウンセリング学	教授	桂川 泰典
専門・専攻分野	学校カウンセリング学, 発達障害	学位	博士(人間科学)早稲田大学
指導内容	教育・心理臨床場面における具体的支援について、背景理論と事例的理解を積み重ね、臨床実践的研究方法の習得を目指す。具体的には、1)発達・心理アセスメント, 2)療法的アプローチ, 3)家族の心理社会的支援, 4)教育臨床コンサルテーションの枠組みから学ぶ。また、自己のカウンセリングや支援について省察を行えるよう、多様な社会・文化の中に生きる人を複眼的に理解できる基礎的教養と理解への態度を涵養する。		
Keywords	学校カウンセリング, 発達障害, 特別支援教育, 教育臨床, 文化発達臨床, カウンセリングプロセス		
Web page	https://researchmap.jp/read0155723		
E-mail	katsuragawa■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025年度)	臨床心理学研究領域		

研究指導名	行動臨床心理学	教授	嶋田 洋徳
専門・専攻分野	臨床心理学, 認知行動療法, 行動療法, 健康心理学	学位	博士(人間科学)早稲田大学
指導内容	臨床心理学におけるさまざまな問題に対して、(認知)行動論的アプローチを用いて研究と心理臨床実践を行う。特に、不安、抑うつ、怒り、心理的ストレス、学校不適応、職場不適応、心身症、発達障害、犯罪行動などについて、認知行動療法、行動療法の観点から理解される症状や問題行動の理論モデルの検討、治療モデルの検討、症状や問題行動の形成と維持、治療に及ぼす個人差変数の検討などが主なテーマとなる。主な研究課題は、認知や行動の問題に起因すると考えられるさまざまな症状や不適応行動の改善、適応行動や健康行動の育成に関する認知行動療法や行動療法の基礎と応用である。		
Keywords	認知行動療法, 行動療法, 心理的ストレス, 学校不適応, 職場不適応, 健康行動		
Web page	https://simac.w.waseda.jp/		
E-mail	simac■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025年度)	臨床心理学研究領域		

研究指導名	医療心理学・職場メンタルヘルス学	教授	鈴木 伸一
専門・専攻分野	臨床心理学(認知行動療法)、医療心理学、行動医学、臨床ストレス科学	学位	博士(人間科学)早稲田大学
指導内容	うつ病、不安障害、心身症などのさまざまなストレス関連疾患の発症・維持・悪化に関与する諸要因の影響性を検討するとともに、ストレス関連疾患の予防・治療・リハビリテーションに向けた認知行動療法の方法論について研究する。また、研究の焦点としては、 <u>身体疾患患者のメンタルケアおよび職場のメンタルヘルスを実践フィールドと位置付け、単に精神衛生上の問題のみを取り上げるのではなく、成人が抱えやすい生活上の問題や罹患しやすい心身の問題の予防およびケアに焦点を当てたトータル・ヘルス・プロモーションを目指した最先端の研究および臨床実践を行う。</u> これらを実現するために、「うつ・不安のメカニズムに関する基礎研究グループ」、「身体疾患患者のメンタルケアシステムに関する研究グループ」、および「職場のメンタルヘルスに関する研究グループ」を構成し、各プロジェクトとリンクした個別の研究テーマを選定し、取り組んでいく。具体的には、うつ病や不安な障害、ストレス関連疾患等への認知行動療法の効果の検討、がんや心臓病など重症身体疾患を抱えた患者へのメンタルケアシステムの開発、うつ病・自殺予防に向けた地域および企業でのストレスマネジメントや復職支援、生活習慣病の予防・治療・リハビリテーションに関する行動医学的支援などの研究領域が挙げられる。		
Keywords	認知行動療法, 医療心理学, 職場メンタルヘルス, 臨床ストレス科学, 行動医学		
Web page	https://ssuzuki.w.waseda.jp/		
E-mail	ssuzuki■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025年度)	臨床心理学研究領域		

研究指導名	行動医学	教授	熊野 宏昭
専門・専攻分野	臨床行動分析、メタ認知理論、応用脳科学、行動医学	学位	博士(医学) 東京大学
指導内容	<p>行動医学とは、精神医療と身体医療の双方に臨床心理学を適用する専門領域である。ここでの臨床心理学は、科学としての方法論に基づくことが前提となり、介入法としては、慢性疾患の治療支援や痛みに伴う回避行動など即時的な解決が難しい問題にも適用されるために、認知の内容ではなく機能(影響力や効果)を変える技法を含む「マインドフルネス的な認知行動療法」が重視される。本研究指導では、アクセプタンス&コミットメント・セラピー、メタ認知療法、マインドフルネスの奏功メカニズムに関わる心理学的な基礎研究、さらに注意訓練法やマインドフルネスが脳機能や視線に及ぼす影響を検討する認知神経科学的研究、不安障害、気分障害、摂食障害、糖尿病、メタボリック症候群など、改善のために生活のセルフコントロールの必要性が大きい精神疾患や生活習慣病等に関する調査・実験・介入研究などの指導を行う。</p>		
Keywords	臨床行動分析、メタ認知、注意制御機能、マインドフルネス、前頭葉機能、行動医学		
Web page	https://kumanolab.com/ , http://hikumano.umin.ac.jp/		
E-mail	hikumano■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025年度)	臨床心理学研究領域		

研究指導名	神経・生理心理学	教授	田山 淳
専門・専攻分野	臨床心理学	学位	博士(障害科学) 東北大学
指導内容	<p>臨床心理学的な支援が必要な障害や疾患群では、健常者と異なる彼らの高次脳の異常、その異常と連動する心身の異常が観察されます。脳-身体-心理的異常の連関関係を考慮しながら、要支援者への介入プログラムを設計し、介入効果測定を行うことで介入の利点が科学的に明らかになります。この研究指導では、心理療法を中心とした非薬物療法の利点について、主として介入研究と実験研究を通して探ることを目指します。</p>		
Keywords	神経・生理心理学、高次脳機能、心身相関、非薬物療法		
Web page			
E-mail	jtayama■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025年度)	臨床心理学研究領域		

研究指導名	行動分析学	教授	大月 友
専門・専攻分野	行動分析学	学位	博士(臨床心理学) 広島国際大学
指導内容	<p>行動分析学を理論的基盤とし、さまざまな心理・行動的問題(不安・抑うつ・不適應など)、発達の問題を環境との相互作用という観点から“理解”し“影響を与える”ことを目的とした研究と臨床実践を行う。特に人間の言語や認知、および、それらがどのように行動に影響を与えるかについて、関係フレーム理論を援用した応用行動分析的アプローチ(臨床行動分析やアクセプタンス&コミットメント・セラピーを含む)を展開する。具体的には、心理的問題や精神病理における言語・認知の“機能”に関する研究、潜在的認知に関する行動分析学的研究、心理的問題に対する介入法の検討、言語や認知的側面に対する発達の視点・支援に関する研究、などを関係フレーム理論の視点から研究を行う。</p>		
Keywords	行動分析学、関係フレーム理論、臨床行動分析、行動療法		
Web page			
E-mail	tomu.ohtsuki■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025年度)	臨床心理学研究領域		

研究指導名	発達臨床心理学	准教授	大森 幹真
専門・専攻分野	発達臨床心理学・応用行動分析学・障害者・障害児心理学	学位	博士（心理学）慶應義塾大学
指導内容	発達臨床支援では、特定の発達障がいが存在する問題を深く究明することに限らず、診断を横断して顕在化する諸問題に共通して対応可能な評価と支援を行う必要もあります。そのため、応用行動分析学や発達臨床心理学を始め、他領域の知見も融合させて発達障がい児を多角的に理解していく必要があります。本研究指導では、発達障がい児の言語・行動・学習の獲得と制御を主眼においた基礎研究ならびに応用研究を行います。その上で、発達障がい児に対しての学習面・行動面に関しての個別・手段支援に関する技法や、新たな支援方法の開発、さらには実践現場での運用方法についても学びます。		
Keywords	発達障害、応用行動分析学、発達臨床心理学、言語行動、視線機能分析		
Web page			
E-mail	mikkiomori■waseda.jp（左記■部分を@に変更してメールを送ってください）		
旧研究領域（～2025年度）	臨床心理学研究領域		

研究指導名	心理学的支援論	准教授	井合 真海子
専門・専攻分野	臨床心理学、認知行動療法、心理学的支援	学位	博士(人間科学)早稲田大学
指導内容	本研究指導では、不安や怒り、抑うつなど様々な感情のコントロールに困難を抱える者を対象として、関連する症状や疾患のメカニズムに関する研究や、有効な心理学的支援に関する研究及び臨床実践を行う。感情のコントロール不全が関連する疾患として、うつ病、不安症、摂食障害、境界性パーソナリティ障害など様々な疾患が研究支援対象となり得る。心理学的支援の方法論については、認知行動療法的アプローチを前提とする。さらに、新世代の認知行動療法の一つとされる弁証法的行動療法など、従来の認知行動療法をより発展させ、かつ他の心理療法の知見も取り入れるような統合的な心理学的支援方法の有効性について検討することも研究テーマに含まれる。		
Keywords	感情コントロール、認知行動療法、弁証法的行動療法、医療臨床		
Web page			
E-mail	m.igo■waseda.jp（左記■部分を@に変更してメールを送ってください）		
旧研究領域（～2025年度）	臨床心理学研究領域		

9.情報・感性・人間工学研究領域

研究指導名	生体情報工学	准教授	百瀬 柱子
専門・専攻分野	生体情報工学	学位	博士(工学)早稲田大学
指導内容	生体情報工学とは、生体システムの計測・処理・制御の解析を工学的手法で行うとともに、その結果から得られた生体システムの知見を工学的に応用することを目指すものである。本研究指導では、主にヒトの感覚機能や知覚情報処理を、脳・神経科学的側面からとらえて解析・解明し、医療やヒューマンインタフェース分野で活用するための研究を行う。感覚・知覚情報処理を客観的にとらえる技術として、非侵襲・低拘束で計測ができる生体信号(脳波、眼球・瞳孔運動、心拍、呼吸など)と生体生理モデルによるシミュレーションを利用する。そのため、感覚系の生理的構造や神経情報処理の知見に加えて、生体信号の非侵襲計測技術と信号処理論についての研究指導を行う。		
Keywords	生体信号計測、生体信号処理、感覚機能、知覚情報処理、潜在的(無意識的)認知処理		
Web page			
E-mail	momose■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025年度)	感性認知情報システム研究領域		

研究指導名	言語情報科学	教授	菊池 英明
専門・専攻分野	言語情報科学、人工知能、ヒューマンエージェントインタラクション	学位	博士(情報科学)早稲田大学
指導内容	情報化社会の進展に伴い音声言語メディアの役割は今後一層重要になる。言語情報科学とは、情報科学を視座の中心に据えて、音声言語メディアについて総合的に考察し、人間の言語行動をモデル化しようとする学問分野である。具体的には、言語学、心理学、認知科学、脳科学といった人間科学の基礎学問を前提としながら、コンピュータ・情報処理技術の導入や開発を通じて、音声言語の理解・生成・インタラクションなどのモデルを構築していく。主な研究課題は、会話メカニズムの解明、人と機械の対話インタフェース、音声による感情・態度の理解・表出モデル、コミュニケーションスキル向上支援など。		
Keywords	音声、言語、コミュニケーション、インタラクション、会話、コーパス、ロボット、人工知能、VR		
Web page	https://sites.google.com/view/kikuchihideaki/home		
E-mail	kikuchi■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025年度)	感性認知情報システム研究領域		

研究指導名	知識情報科学	教授	松居 辰則
専門・専攻分野	感性情報科学、人工知能、スキルサイエンス、教育・学習支援システム	学位	博士(理学)早稲田大学
指導内容	「人間の深い知識(感性、暗黙知)への科学的アプローチ」をテーマにして多面的に研究を行う。数学的基盤開発、モデル化、心理実験、生体計測、システム開発、社会調査、文献研究等、テーマに応じて柔軟にかつ複合的に研究方法論を選択する。具体的には次のような研究テーマが考えられる。1)「感性」や「暗黙知」への情報科学的アプローチ(ヒューマンインタフェース、脳機能モデリング、スキルサイエンス(教育、芸術、スポーツ、伝統芸能、医療等)など)、2)エージェントやロボットとの共生・インタラクションに関する研究、3)“AI”と人間の共生インタラクション、4)“AI”による人工感性の構築、5)心的過程への内容指向アプローチ(オントロジー構築)と測定・評価のための量的&質的手法の開発、5)学習者の心的状態の推定方法の開発と学習支援システムへの実装(知的メンタリングシステム)、6)生命現象や社会現象のシミュレーション、7)感性を刺激するようなe-learningシステムや学習教材の開発など。		
Keywords	感性情報科学、人工知能、スキルサイエンス、計量心理学、知的学習支援システム、暗黙知(ノウハウ)、オントロジー、脳機能モデリング、定性シミュレーション		
Web page	http://www-mtlab.human.waseda.ac.jp または http://w-mtlab.info		
E-mail	matsui-t■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		

旧研究領域 (~2025 年度)	感性認知情報システム研究領域
---------------------	----------------

研究指導名	ハプティックインタフェース	教授	藤本 浩志
専門・専攻分野	ヒューマンインタフェース、生活支援工学、福祉工学	学位	博士(工学)早稲田大学
指導内容	触覚を介したヒューマンインタフェースに関する開発評価研究を行う。基礎的研究では、人に備わった触覚に着目し、対象物の形状や振動状態の触知覚特性を明らかにする実験研究に取り組んでいる。それらの知見を生かした応用研究としては、視覚に障がいがある人への情報提示方法に関連して、例えば点字や点図の触知覚特性を明らかにしたり、近年普及してきているタッチパネルの表現力の向上を目指して、例えば高周波振動刺激による表面の摩擦低減効果に着目し、その現象を用いた凹凸感の提示方法の実験研究、さらに振動知覚特性に基づいてスマホやスマートウォッチの振動提示の規格化(JIS 化)を目指した実験研究を行っている。また併せて、操作時に手指の運動機能や備えている粘弾性特性による特徴を明らかにし、操作性の向上に資する知見を明らかにしている。		
Keywords	ヒューマンインタフェース、感覚機能、運動機能		
Web page	http://sem-fujimoto.w.waseda.jp/		
E-mail	fujimoto■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025 年度)	感性認知情報システム研究領域		

研究指導名	安全人間工学	教授	加藤 麻樹
専門・専攻分野	安全人間工学	学位	博士(人間科学)早稲田大学
指導内容	人間の日常生活の環境を構築する人工的な製品の数々は、豊かな生活を実現する一方で、人間との適合性が低い場合には安全を脅かす危険要因となり得る。そこで身の回りの製品や空間が生活に対して与える影響を、安全性と効率性の観点から評価する必要がある。生活人間工学では、日常生活において見逃され易い課題を抽出するとともに、客観的な分析と具体的な解決策の検討により、安全かつ効率的な生活空間を構築する研究を行う。		
Keywords	人間工学, 経営工学, 製品安全設計, フェイルセーフ, ヒューマンエラー, 作業分析		
Web page	https://macky.w.waseda.jp/		
E-mail	macky■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025 年度)	感性認知情報システム研究領域		

研究指導名	産業人間工学	准教授	肥田 拓哉
専門・専攻分野	産業人間工学、インダストリアル・エンジニアリング	学位	博士(工学)首都大学東京
指導内容	産業人間工学では、労働現場における人に関わる問題を解明することで、健康・安全・快適で効率的な労働現場の実現を目指しており、これに関連する研究指導を実施する。例として、仕事によって引き起こされる筋骨格系障害(肩や腰の痛みなど)の問題がある。この問題を解明するには、作業姿勢、取扱い物の重量や大きさ、作業頻度、設備や工具の使いやすさ、作業環境などの複数の要因を考慮する必要がある。そこで、姿勢や動作の計測技術、負担の評価技術、計測・評価したデータの分析技術を用いた問題の解明方法について指導する。これに加えて、作業効率も考慮するためにインダストリアル・エンジニアリングの考え方も取り入れる。		
Keywords	身体負担、作業設計、姿勢推定、機械学習、労働安全衛生、生産性、カイゼン		
Web page			
E-mail	hida■waseda.jp(左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025 年度)	感性認知情報システム研究領域		

研究指導名	加齢人間工学	教授	倉片 憲治
専門・専攻分野	加齢人間工学	学位	博士(人間科学)大阪大学
指導内容	加齢人間工学は、加齢変化によって高齢者(及び障害者)が引き起こすエラーや事故、日常的に経験する不便さ・困難さ等について考察し、それら諸問題の解決方法を見いだす人間工学の一分野である。加齢や障害、環境条件等による人間の感覚・心理特性の変化の調査・測定を通して、高齢者等を含む様々な人が製品・サービス・環境を利用する時に生じる問題を発見し、それを解決する技術的手段を探るための研究指導を行っていく。		
Keywords	加齢、人間工学、感覚、認知、障害(特に難聴)、ヒューマンエラー、人間中心設計		
Web page	http://researchmap.jp/read0166286/ https://kurakata.kenji.waseda.jp/index.html		
E-mail	kurakata.kenji■waseda.jp(左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025年度)	感性認知情報システム研究領域		

研究指導名	インターネット科学	教授	西村 昭治
専門・専攻分野	情報科学／インターネット科学、メディア科学、教育工学	学位	博士(人間科学)大阪大学
指導内容	インターネット上の様々なデータを科学的に分析しそれに基づき我々の生活に有用なアプリケーションの設計を行い開発・評価をする。例えば膨大なインターネット上にある日本語文章の特徴を分析し、その分析結果を基に効率よくユーザが知りたいデータをインターネットより見つけ出すアプリケーションの開発するようなテーマが挙げられる。その他適応分野は教育、金融など多岐にわたる。		
Keywords	インターネット、データマイニング、統計解析、アプリケーション開発、教育工学		
Web page	http://www.waseda-nishimura.jp/		
E-mail	kickaha■waseda.jp(左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025年度)	教育コミュニケーション情報科学研究領域		

研究指導名	ネットワーク情報システム学	教授	金 群
専門・専攻分野	計算機科学、情報システム学、人間情報学	学位	博士(工学)日本大学
指導内容	本研究指導では、学生はコンピュータサイエンス、情報システム学、人間情報学の関連領域において、修士学位または博士学位を取得するための独自の研究を構想し進める。「人類共通利益のための技術(technology for the common good)」と「ヒューマンウェルビーイングのためのコンピューティング(computing for human well-being)」の創造とイノベーションを基本的な研究理念とし、コンバージェント・リサーチ(convergent research)を通じて人間を理解し支えることを目指す。研究テーマは、高度知能化で包括的なデータ分析、高信頼データ連携・共有・利活用プラットフォーム、サイバー・フィジカル・ソーシャルシステム、ヘルスケアや学習支援、カーボンニュートラル社会の実現への応用など多岐にわたる。		
Keywords	人工知能、機械学習、基盤モデル、マルチモダールモデル、ビッグデータ、プライバシー・バイ・デザイン、ブロックチェーン、因果分析、ヘルスアナリティクス、ラーニングアナリティクス、デジタルツイン、メタバース、CPS、HCI、IoT、スマートサービス		
Web page	https://nislabs.human.waseda.ac.jp/ https://researchmap.jp/jinquin/		
E-mail	jin■waseda.jp(左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025年度)	教育コミュニケーション情報科学研究領域		

研究指導名	インタラクションデザイン	教授	市野 順子
専門・専攻分野	ヒューマンコンピュータインタラクション、ヒューマンインタフェース、ユーザーエクスペリエンス	学位	博士(工学)神戸大学
指導内容	コンピュータやメディア技術と認知心理学や社会科学の知見を融合することによって、人と人の協調を支援する研究(CSCW: Computer Supported Cooperative Work)や人と協調するソーシャルロボットの研究、その他ヒューマンコンピュータインタラクションの研究を行う。学際的な研究によって、単にシステムを開発するだけではなく、人と人や人と人工物の協調に関する理解を深めることを重視している。		
Keywords	CSCW (Computer Supported Cooperative Work)、VR/AR (Virtual/Augmented Reality)、HRI (Human-Robot Interaction)		
Web page	https://researchmap.jp/read0133357		
E-mail	ichino■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025年度)	感性認知情報システム研究領域		

10. 教育・コミュニケーション科学研究領域

研究指導名	教育システム開発論	教授	井上 典之
専門・専攻分野	教育心理学、教育研究方法論	学位	Ph.D. (Educational Psychology) Columbia University
指導内容	教育を人間の主体的な学び・成長を促すためのシステムとして捉え、教育システムの開発とそれに関連する様々な課題をグローバルな視点で研究していきます。教育の複雑性にメスを入れ、人を教えることに関する新しい知見を生み出す実証的・実践的な研究を行います。同時に現代的な教育の課題の解決に貢献できる理論的・方法的フレームワークの構築を目指し、教育における文化認識論の役割、理論と実践のギャップを乗り越える研究のあり方などについての探究を行います。		
Keywords	教育システム、アクションリサーチ、教師発達、教え手のエージェンシー、学習における内的動機、数学教育、異文化理解		
Web page	https://ninouehomepage.wixsite.com/main/prof-inoue		
E-mail	n.inoue■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025年度)	教育コミュニケーション情報科学研究領域		

研究指導名	教育データサイエンス	准教授	杉澤 武俊
専門・専攻分野	心理統計学・教育測定論	学位	博士(教育学)東京大学
指導内容	教育やその関連分野において、データの統計的分析に基づく実証は頻繁に用いられるアプローチです。しかし、学力等の直接目に見えない特性を得点化して表すことや、統計的手法が想定しているデータの性質と現実世界のデータとの乖離など、妥当な研究を行うためにはさまざまな困難を解決する必要があります。本研究指導では、それらの問題を解決する方法論の検討や、それを実際に応用した、よりよい研究について追求していきます。		
Keywords	教育心理学、量的研究法、テスト理論、統計教育		
Web page			
E-mail	sugisawa■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025年度)	教育コミュニケーション情報科学研究領域		

研究指導名	国際教育コミュニケーション	准教授	杉本 清香
専門・専攻分野	人文社会情報学	学位	Ph.D. University of Toronto
指導内容	My research area is internationalization of higher education in Japan with a particular focus on EMI (English Medium Instruction) and CLIL (Content and Language Integrated Learning). My current research projects focus on students' and instructors' needs in EMI classrooms and on construction of support systems for effective EMI implementation. Other topics of interest include best practices of EMI and CLIL and success factors of EMI degree programs.		
Keywords	Internationalization of higher education, EMI, CLIL		
Web page			
E-mail	sugimoto■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025年度)	教育コミュニケーション情報科学研究領域		

研究指導名	Sociolinguistics of Education and Communication	准教授	ムラー セロン
専門・専攻分野	Applied linguistics and TESOL	学位	PhD in Applied Linguistics from The Open University, MA in TEFL/TESL from the University of Birmingham
指導内容	I am interested in supervising projects that explore the intersection of language and society through a variety of empirical means. These can include classroom-based language teaching or learning investigations as well as broader investigations into how language is embedded in and interacts within situated social contexts. TESOL themes for possible exploration include issues of motivation, identity, and autonomy as well as more traditional TESOL research into, for example, writing instruction. Sociolinguistic themes can include academic literacies, literacy histories, and examination of the language of public discourse, such as job advertisements.		
Keywords	Applied Linguistics, TESOL, Academic Literacies, Translanguaging, Writing for Publication		
Web page	https://theronmuller.w.waseda.jp/		
E-mail	muller■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025年度)	教育コミュニケーション情報科学研究領域		

研究指導名	教育実践学	教授	浅田 匡
専門・専攻分野	教育工学、教育心理学、教師学	学位	
指導内容	学校教育を中心として、授業をはじめ教育実践の改善に資する実践研究を行う。教育実践における教師の役割は大きく、教師研究を中心とし、教師の実践に関する知識の獲得過程や教師間の相互作用による知識創造過程などを、具体的な授業実践に基づきながら研究を行う。そこでは、専門家としての教師の力量形成にとどまらず、人間的成長を視野に入れている。方法としては、インタビュー法、観察、ビデオによる授業分析など、いわゆる質的研究法と調査法を組み合わせる。また、教育実践学のバックグラウンドとして、自己心理学、人間性心理学、教育方法学、教育工学、システム論、組織マネジメントなどの文献講読をあわせて行う。		
Keywords	授業研究、教師教育、実践知、教師の職能発達、カリキュラム、学校システム、アクション・リサーチ、メンタリング		
Web page			
E-mail	asada■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025年度)	教育コミュニケーション情報科学研究領域		

研究指導名	情報コミュニケーション技術論	教授	スコット ダグラス
専門・専攻分野	コミュニケーション、異文化コミュニケーション	学位	Ph.D(教育学) Univ. of Michigan
指導内容	The general topic area is information and communication technologies (ICT) and how these tools can help (and potentially impede) our efforts to communicate with others. We have many ICT tools to choose from, for instance telephone call, email, text messaging, etc., and the challenge is to know the advantages and disadvantages of each to make the best selection for the situation. Topics of interest include mobile phone use by Japanese young people, Internet-based communications by American college students, video conferencing in education, and gender differences in ICT use.		
Keywords	情報コミュニケーション技術、 インターカルチュラルコミュニケーション、 教育工学		
Web page	https://scottlab.wordpress.com		
E-mail	djscott■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025 年度)	教育コミュニケーション情報科学研究領域		

11. 身体性認知科学研究領域

研究指導名	パフォーマンス認知科学	准教授	三浦 哲都
専門・専攻分野	認知心理学	学位	博士(学術) 東京大学
指導内容	三浦研究室では、パフォーマンスに関する何らかの問いに対して、生体情報(運動、視線、呼吸、心拍など)を計測し、そのデータに基づいた実証的な研究を進めています。修士課程では、まず研究の基礎を習得するために、研究室で進行中のプロジェクトの中から、自分の興味に近いプロジェクトを選び、その研究を進めます。研究の進捗に応じて、その研究テーマと個々人の興味のあるテーマとを融合させることで、独創性の高い研究へと発展させます。		
Keywords	ダンス、バレエ、リズム、グルーブ、即興性、創造性、動作解析、知覚運動制御		
Web page			
E-mail	akito.miura■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025 年度)	感性認知情報システム研究領域		

研究指導名	劇場認知科学	准教授	野村 亮太
専門・専攻分野	認知科学	学位	博士(心理学)九州大学、博士(工学)東京理科大学
指導内容	野村研究室では、劇場で発揮される“楽しませ”“楽しむ”という人間ならではの知性を解明することを目指し、既存の枠組みにとらわれず、様々なアプローチで研究を進める。例えば、噺家の熟達化過程については、心理実験を実施し、観客の身体運動や瞬目反応等の定量指標を用いて研究している。一方、観客の相互作用については、笑い声の伝播・同期に関する数理モデルを組み、数値実験により研究している。指導では、学生の興味やこだわりを出発点にするが、同時にそれを国際的な研究にまで高めることを指針にしている。なお、プログラミングは必須ではないが、プログラミングが必要になる数理的な研究テーマも歓迎している。		
Keywords	ライブパフォーマンス、舞台、相互作用、落語、熟達化、非線形時系列解析		
Web page	https://nomuraryota.w.waseda.jp/		
E-mail	nomuraryota■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025 年度)	感性認知情報システム研究領域		

研究指導名	日常記憶心理学	准教授	杉森 絵里子
専門・専攻分野	認知心理学	学位	博士(教育学)京都大学
指導内容	我々は、現実世界において、「やり忘れ」「重複」を防ぐためにも空想と現実を区別する必要がある一方で、仮想世界において空想と現実を区別しないことで、空想の世界を楽しむこともできる。人が行為実行時に無意識に得られるとされている「自己主体感(自分こそが行為を実行している感覚)」と、他者の行為実行を観察している時に無意識に得られるとされている「共感」が、現実世界と仮想世界においてどのように働くことで、空想と現実を正確に区別したり敢えて区別せずに楽しんだりできるのかということ、個人差という視点から検討する。		
Keywords	記憶、ソースモニタリング、行為記憶、個人差、アバタ、実験心理学		
Web page	https://sites.google.com/a/psybox.org/eriko-sugimori/		
E-mail	sugimori■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025年度)	感性認知情報システム研究領域		

研究指導名	マルチモーダルコミュニケーション	准教授	関根 和生
専門・専攻分野	心理言語学／発達心理学	学位	博士(心理学)白百合女子大学
指導内容	コミュニケーションは、言語、身体、認知、文化が交差する現象である。また、日々の対面コミュニケーション場面では、発話や身振り、視線、表情、姿勢など、複数のモダリティによって情報のやりとりが行われている。本研究室では、こうした複雑なコミュニケーションの実態やその背景にある認知過程、発達の変化を実証的に明らかにすることを目指している。各自の研究目的と研究の実施状況に応じて、先行研究のレビューや実験の立案、実験準備、データ収集・解析、論文の作成を支援・指導していく。研究の立案から執筆に至るまで、「なぜその研究が重要なのか」という問いを常に意識しながら、議論を進めていきたい。		
Keywords	マルチモーダルコミュニケーション、身振り、発話、発達的变化、身体動作、相互行為		
Web page	https://sekine.w.waseda.jp/		
E-mail	ksekinewaseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025年度)	感性認知情報システム研究領域		

研究指導名	生態心理学	教授	三嶋 博之
専門・専攻分野	認知科学／生態心理学	学位	博士(人間科学)早稲田大学
指導内容	人間が環境から獲得する有意味な情報単位を特定すること、その情報単位の特性とそれを知覚し利用する人間の振るまいとの間にある法則性を解明すること、行為の学習や発達という変化を支える環境資源について特にそこで利用されている情報の観点から明らかにすること、等について扱う。技術的には実験心理学的な手法を、理論的にはJ. J. Gibsonの生態学的アプローチを、それぞれ研究遂行のための支えとする。関連分野の文献の検討、先行研究の追試、新しい解析手法の試用等を行って基礎固めをしながら、実証的なオリジナルの研究の確立を目指す。なお、受講生はMATLABないしは他のプログラム言語を使用できることが望ましい。		
Keywords	アフォーダンス、マイクロスリップ、目的的行為の知覚制御、ダイナミカル・システムズ・アプローチ、自動車運転行動		
Web page			
E-mail	mishima■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025年度)	感性認知情報システム研究領域		

研究指導名	学習環境デザイン論	教授	尾澤 重知
専門・専攻分野	教育工学、学習科学、高等教育論	学位	博士(知識科学)北陸先端科学技術大学院大学
指導内容	学習環境デザイン論ゼミでは、「人の創造的・探究的な学びをいかに促進するか」「学びの阻害要因をいかに取り除き、適応的な学びを支援するか」の両面から研究を進める。企業・組織内の人材育成、高等教育での授業実践、高大接続に関わるプロジェクトなどの実践的活動を対象とした研究を行う。具体的には、①「デザイン思考」などの身体的、協働的な実践を伴う知識創造の支援、②経験学習や内省(振り返り)の支援方法の開発と評価、③探究的な学習を効果的に支援するための生成AIを含むツールの開発と評価、④学習の阻害要因としての認知バイアス(例:文系・理系の選択に生じる偏り)とその解消方法としての「ナッジ」の応用などに関する研究が挙げられる。学習科学領域におけるデザイン研究やTEM等のプロセス重視型の質的研究など、エビデンスベースの研究を通して、現状の変革やイノベーションを目指す。		
Keywords	学習支援、知識創造、探究型学習、認知バイアス、ラーニングポートフォリオ、学習データ分析		
Web page	https://www.ozaken.org/		
E-mail	ozawa■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025年度)	教育コミュニケーション情報科学研究領域		

研究指導名	協調学習と学習科学	准教授	望月 俊男
専門・専攻分野	学習科学・教育工学・科学教育	学位	博士(学術)総合研究大学院大学
指導内容	学習科学は、教授・学習プロセスの分析、支援、革新を研究する学際的な分野である。とくに、学習者同士の協調や道具との相互作用を促すことにより、学びのプロセスに革新をもたらすことを目指している。具体的には、協調的議論を通じた情報リテラシーの育成(認識的認知[epistemic cognition]に関する研究)、議論や協調学習の進め方(共調整・社会的共有調整)の学習を、ICT(情報通信技術)等を活用して支援する研究プロジェクトに取り組んでいる。これらに関わりながら、学習プロセスに新たな変革をもたらすような実践的研究の指導を行う。		
Keywords	協調学習、学習科学、CSCL (Computer-Supported Collaborative Learning)、議論、情報リテラシー、科学コミュニケーション、学習プロセス、社会文化的アプローチ		
Web page	https://www.mochi-lab.net/ https://researchmap.jp/tmochi/		
E-mail	tmochi■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025年度)	教育コミュニケーション情報科学研究領域		

研究指導名	情報メディア教育論	教授	森田 裕介
専門・専攻分野	教育工学、科学教育、情報教育	学位	博士(学術)東京工業大学
指導内容	情報メディアを活用した教育について、問題を発見し解決するプロセス(Requirement Pull)と、テクノロジーの可能性と限界について探究するプロセス(Technology Push)を往還しながら研究する。近年は、統合的かつ教科横断的な学びのひとつとしてよく知られている STEAM 教育を中心に、情報メディアの効果的な活用の提案、VR(仮想現実感)/AR(拡張現実感)/MR(複合現実感)の技術を応用したシステムや教材の開発、メタバースにおける教育の可能性の検討を行っている。また、生体情報を用いた学習活動の分析も行っている。		
Keywords	教育工学、情報メディア、VR/AR/MR、STEAM 教育		
Web page	http://moritalab.net/		
E-mail	ymorita■waseda.jp (左記■部分を@に変更してメールを送ってください)		
旧研究領域 (~2025年度)	教育コミュニケーション情報科学研究領域		

教育臨床コース(修士課程1年制)

研究指導名	学校臨床心理学（修士課程1年制）	教授	大月 友
専門・専攻分野	行動分析学	学位	博士（臨床心理学）広島国際大学
指導内容	学校教育場面における教育臨床上の諸問題、および、児童期から青年期にいたる心理行動面の諸問題に関する、参加各人の研究テーマをもとに指導を行なう。問題設定、研究計画立案、データの収集、データ分析、考察、課題研究論文作成、発表などの各方法についての指導・助言を通して、参加各人が教育臨床に関する研究能力を獲得することを目指す。		
Keywords	行動分析学、関係フレーム理論、臨床行動分析、行動療法、学校教育臨床		
Web page			
E-mail	tomu.ohtsuki■waseda.jp（左記■部分を@に変更してメールを送ってください）		

研究指導名	臨床認知発達学（修士課程1年制）	准教授	大森 幹真
専門・専攻分野	発達臨床心理学・応用行動分析学	学位	博士（心理学）慶應義塾大学
指導内容	発達障害児や学習困難児における教育・実践・臨床現場での諸問題から、障害児の言語・コミュニケーション・学習・社会性の向上のための支援方法の開発や実践について、各人の研究テーマをもとに指導を行なう。問題設定、研究計画立案、データの収集、データ分析、考察、課題研究論文作成、発表などの各方法についての指導・助言を通して、参加各人が客観的に問題を捉える視座を身につけ、発達臨床支援に関する研究能力を獲得することを目指す。		
Keywords	発達障害、学習困難、応用行動分析学、発達臨床心理学、言語行動		
Web page			
E-mail	mikkiomori■waseda.jp（左記■部分を@に変更してメールを送ってください）		

以上